

# まちひとしごと

Vol. 10

立ち飲みバー k a v e r i 代表 ひの まさみ  
日野雅美さん

女性目線でかつこいい農業を広めていきたい



## 農

業女子たちが作った一軒の店。店内にあるのはカウンターののみ。椅子は見当たらない。2014年12月15日、俱知安駅前通りに立ち飲みバー『kaveri(カベリ)』がオープンした。

この店のオーナー日野雅美さん。福岡県で生まれ育ち、兵庫県の短期大学に進学。卒業後は、働きながらスノーボードインストラクターの資格を取得し、31歳のときに北海道(十勝)での生活を始め、そこで農作業をしながらカフェで働くことができた求人を見つけた。

「もともと土いじりが嫌いではなかったのですが、やってみようと思いました。働く中で農業のおもしろさに気付かされたんです」

彼女が本格的に『農業女子』としての道を歩み始めたのは4年前のこ

と。スノーボードでお世話になった人がいるニセコに移住し、農園で働くことにした。

「ここでは、十勝で経験した大型農業と違って、種をまくところから収穫までをさせてもらえました。自分が愛情を込めて育てた野菜はものすごく美味しかったので、一人でも多くの人に食べてもらいたいと思い、立ち飲みバーを始めました」

立ち飲みバーを経営する日野さんの昼の顔は、畑で野菜たちと向き合う農業女子。彼女は、農林水産省が女性農業者の増加を図るため立ち上げた『農業女子プロジェクト』に参加し、全国各地の農業女子たちと情報交換をしながら農業の質を高めようとしている。彼女はこのプロジェクトで、道具や作業着の開発に携わり、これまでに女性ならではの目線で使いやすいさとデザインにこだわった軽トラックなどを製品化させてきた。

「使う道具ひとつでテンションが変わりますからね。オシャレでかつこいい農業をしたいんです」

以前、農業高校で行われた出前授業の中では、自分たちの活動を生徒たちに紹介している。

「初めは農業に全く興味のない生徒ばかりでしたが、私たちの活動を聞いて共感してくれる生徒がたくさんいました。見方や考え方を変えると農業を楽しめるということを感じ

てもらえたと思います」

農業のイメージを変えるため、一歩ずつ確実に前進している。

『kaveri』とは、フィンランド語で『仲間』を意味している。

「知らない人同士が共感できたり仲良くなって繋がる場所になってほしいという願いを込めてこの名前を付けたんです」

今では、その名のとおり多くの仲間が集う場となっているが、店をオープンする前は何度もくじけそうになり、諦めかけたという。

「諦めるのは簡単だけど、諦めたくなかった。諦めるよりはちよつとずつでも前に進みたい」

店で出会った仲間や農業女子の仲間、これまで出会った仲間たちとの繋がりの中でひとつひとつ夢を叶えてきたが、彼女には成し遂げたいことがまだたくさんある。自分たちの農園を作りたい。自分が育てた野菜をもっと世に広めたい。さらには、自分たちが育てた苗をいつか宇宙に持っていきたいという大きな夢がある。どんな困難も乗り越え、やっとな帰還した小惑星探査機『はやぶさ』の姿に何度も勇気づけられたという日野さん。諦めずにちよつとずつでも前に進み続けられれば、いつかその夢を叶える日が来るのかもしれない。

※まちひとしごとは不定期連載です